

実践のまとめ（第6学年 社会科）

柏崎市立柏崎小学校 教諭 牧 正耀

1 研究テーマ

**歴史的事象について、多角的に捉え、自分の考えを表現する力の育成
～江戸幕府の政策に対する評価を伝え合う活動を通して～**

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、第6学年の社会科の目標として「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」と示されている。

教師としては、児童が問いをもちながら考えを深め、資料や他者の意見を活用して自分の意見を確かに表現できるようになることを願っている。しかし、日々の授業実践を振り返ると、知識を得ることに意欲的な児童は多いものの、それをもとに考えを深めたり、自分の意見を表現したりすることには課題が見られる。また、発表などの場面でも、根拠があいまいであったり、一面的な視点にとどまったりすることが多い。

以上をふまえ、本研究では、「歴史的事象について、多角的に捉え、自分の考えを表現する力の育成」を目指す。本研究での多角的とは、歴史的事象を幕府の人間やそれ以外の人間など異なる立場から見ることを行う。本研究では、単元を貫く学習問題と「江戸幕府の政策評価」という学習課題を軸に、思考を整理しながら他者と交流し、自分の考えを形成・表現する授業の在り方を明らかにする。

(2) 研究テーマに迫るために

① 「政策カード」を活用した思考整理と意見交流

政策の特徴が視覚的につかめる「政策カード」を活用する。政策の内容や目的、効果や影響について整理し、政策への理解を深める。児童が多角的な視点で政策の影響を考えられるように、「誰にとってどうだったか」の視点と「プラス面／マイナス面」の観点から政策について個別の整理・評価ができるようにする。個人で必要な知識を整理した後、グループ内で意見交流の時間を設定し、他者の見方と比較しながら自分の考えを再構成する活動へとつなげることで、思考の深化を促す。

② 単元を貫く学習問題と「ベスト政策を選ぶ」統合的課題

単元全体を通して「江戸幕府が長く続いたのはなぜだろう。～有効だった政策ベスト3を考えよう～」という学習問題を設定し、児童が継続的に問いに向かい続けられるようにする。各時間で取り扱った政策の目的や影響について理解を深める過程を積み重ねていき、最終的にその中から「どの政策が最も有効だったか」について、根拠とともに選択する統合的課題を設定する。有効だった政策をランキング化させることで、思考の深化と表現力の育成を図る。このように、単元を貫く学習問題と統合的課題を組み合わせることで、歴史的事象を断片的な知識ではなく、多角的に捉え、表現する力を養うことができると考える。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 量的評価（児童アンケート）

学習状況や授業への取組の変化について検証する。

② 質的評価（ワークシートの記述）

児童が政策の影響を多角的に捉え、立場の違いに着目しながら、自分の考えを理由とともに表現しているかを評価する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

幕府の政治と人々の暮らし（小学社会 6 教育出版）

(2) 単元の目標

- ・ 武士による政治が安定したことについて理解するとともに、各種の基礎的資料を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・ 江戸幕府の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・ 江戸幕府の政治について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、資料をもとに必要な情報を集め、読み取り、参勤交代や身分制度、鎖国などの幕府の政策について理解している。 ・ 調べたことをまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度について多角的に考え、表現している。 ・ 参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸幕府の政治について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全 8 時間、本時 7 / 8 時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸時代が長く続いたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎安土桃山時代と江戸時代の長さを比べ、学習したい課題を考えよう。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。（毎時間） 【発言・振り返り】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ◎江戸幕府が長く続いたのはなぜだろう。 ～有効だった政策ベスト3を考えよう～ 		

<p>2 (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府は、大名の配置や武家諸法度、参勤交代などの仕組みをつくり、強い力で全国を支配したこと。 ・幕府は、身分制度のもと、様々な負担を負わせたり制限を設けたりして人々を支配したこと。 ・幕府は、国内でキリスト教を厳しく取り締まるとともに、外国に対しては鎖国の政策をとり、貿易の利益を独占したこと。 ・鎖国政策のもとでも、対馬・薩摩・松前を窓口として近隣諸国との交流や交易が行われていたこと。 	<p>◎幕府は、どのようにして大名を支配したのだろうか。</p> <p>◎幕府は、どのようにして人々を治めたのだろうか。</p> <p>◎幕府は、キリスト教や外国に対して、どのように対応していったのだろうか。</p> <p>◎幕府は、鎖国のもと、外国とどのように交流したのだろうか。</p>	<p>知識・技能 江戸幕府の政策から、大名支配の考え方やその仕組みを捉えている。 【ワークシート】</p> <p>知識・技能 江戸幕府の人々に対する支配の仕組みを捉えている。 【ワークシート】</p> <p>知識・技能 鎖国の経緯などから鎖国政策が幕府の支配を強めたことを理解している。 【ワークシート】</p> <p>知識・技能 江戸幕府と外国との関係について理解している。 【ワークシート】</p>
<p>3 (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の様々な政策によって、武士による政治が安定したこと。 	<p>◎江戸時代が長く続いたのはなぜだろう。「ベスト政策」考えよう。</p> <p>◎「ベスト政策」を伝え合おう。【本時】</p> <p>◎「有効だった政策ベスト3」を考えよう。</p>	<p>思考・判断・表現 幕府の政策が人々の支配にどのような影響を与えたのかを多角的に考え、表現している。 【発言・ワークシート】</p>

4 単元と児童

(1) 単元について

江戸時代は260年以上にわたる長期政権であり、その安定の背景にあった政策に着目することで、「なぜ長続きしたのか」という本質的な問いに迫ることができる。それぞれの政策について「内容や目的（何のために何をしたのか）」と「効果や影響（誰にとってどうだったか）」という視点で多角的に考えることで、社会的な見方・考え方を働かせた探究的な学びが可能となる。また、「ベスト政策を選ぶ」という課題設定は、意思決定・判断・表現を要する統合的な思考活動となり、社会科の資質・能力を育成することができる意義ある題材であると考えられる。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、歴史に興味をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。一方で、社会科に対し、苦手意識をもっている児童も少なくない。これまでの授業では、資料をもとに歴史的事実について調べ、分かった内容をグループで話し合ったり、学級全体で共有したりする学習形態を取り入れてきた。個人で調べることが苦手な児童にとっては、グループや学級全体で情報共有する場面が手掛かりとなる場合が多い。しかし、年表や出来事の暗記に偏っている児童もおり、因果関係の理解や視点の切り替えに課題がある。また、自分の考えを明確な理由とともに記述することに対して苦手意識をもつ児童が多く見られる。

そこで、本単元では、政策カードを用いて、各政策に対する理解を深めるとともに、異なる立場から見た意味や影響に気付けるようにする。そして、「ベスト政策を選ぶ」という課題を通して、自分の意見を形成・表現する力を身に付けることを期待する。

5 本時の展開（令和7年10月20日実施）

(1) ねらい

自分が考える「ベスト政策」を伝え合う活動を通して、政策のプラス面とマイナス面について理解を深め、多角的に政策を評価する視点をもって自分の考えを形成する。

(2) 展開の構想

児童は、単元を通して、各政策について、目的と内容、効果や影響などを「政策カード」にまとめている。前時には、政策カードを参照しながら各政策を評価し、自分が思う「ベスト政策」を選んでいる。

本時は、その「ベスト政策」について、グループで伝え合う活動を通して、各政策のプラス面とマイナス面や複数の立場の視点から個別の政策について多角的に整理・評価できるようにする。グループ内で意見交流し、他者の見方と比較しながら、自分の考えを再構成する活動へとつなげることで、思考の深化を促す。

学習の最後には、評価が上がった政策とその理由を記述することで、異なる見方や考え方に触れる良さを感じ取らせたい。交流活動を通して、多角的に政策を評価する視点をもって自分の考えを形成する姿を期待する。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5分	○前時までの復習をする。 ○学習課題の確認をする。	T:幕府はどんな政策を行ったでしょう。 C:大名配置。武家諸法度。参勤交代。身分制度。鎖国。 T:江戸幕府が長く続いたのはなぜでしょう。考えた「ベスト政策」を伝え合いましょう。	○政策カードを提示し、簡潔に政策内容を振り返る。 ◇自分が思う「ベスト政策」にネームプレートを貼らせる。
◎江戸時代が長く続いたのはなぜだろう。～「ベスト政策」を伝え合おう～			

展開 ① 8分	○グループで「ベスト政策」を伝え合う。	T:「ベスト政策」を選んだ理由（プラス面）をグループの仲間が納得するように伝えましょう。また、仲間の意見について、反対意見（マイナス面）があれば、伝えましょう。 C1:僕が選んだベスト政策は、「武家諸法度」です。理由は、大名の行動や建築、結婚などを厳しく制限し、幕府に逆らえないようにしたからです。だから、大名が幕府に従い、戦争のない平和な時代が続いたのだと思います。 C2:でも、武家諸法度によって、大名の自由は奪われたので、不満をもつ人も多かったと思います。大名が自由に政治をできないのは、よくないことだと思います。	◇異なる意見をもつ児童が同一グループになるように班編成をしておく。 ○相手が納得するように説明すること、相手の意見を受け止めること、意見が変わってもよいことなど、話合いのポイントを確認する。 ○机間巡視する中で、適切に助言をし、理由を明確に伝えられるようにする。 □「ベスト政策」を理由とともに伝えている。 □各政策のプラス面やマイナス面について理解している。
展開 ② 5分	○友達と「ベスト政策」を伝え合う。	T:他の友達とも自由に話してみましょう。	
展開 ③ 7分	○理由の再確認をする。	T:同じ政策を選んだ人でグループになり、理由（プラス面）をカード（赤）に記入しましょう。また、反対意見（マイナス面）もカード（青）に書きましょう。	◇話し合ってみて考えが変わった児童は、黒板のネームプレートを移動するように指示を出す。 ◇記入したカードを黒板に掲示する。
展開 ④ 10分	○全体で共有する。	T:○○をベスト政策に選んだ人がいませんが、○○はマイナス面しかないのですか。	○考えを視覚的に分かりやすく板書する。 ○適宜、発問をする。
終末 10分	○学習活動を振り返る。	T:今日の学習を通して、評価が上がった政策は何ですか。その理由を記述しましょう。	◇振り返りの視点を示す。 □多角的に政策を評価する視点をもって、自分の考えを表現している。

(4) 評価

思考・判断・表現

幕府の政策が人々の支配にどのような影響を与えたのかを多角的に考え、表現している。

【発言・ワークシート】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① 「政策カード」を活用した思考整理と意見交流

第1時で、本単元の学習問題と課題を確認し、第2時から第5時は、「政策カード」(図1)を活用して、政策の内容や目的、効果や影響について整理し、政策への理解を深めた。政策の内容と目的は、穴埋め形式で個人で調べ、効果・影響については、「誰にとってどうだったか」の視点と「プラス面/マイナス面」の観点から、グループで話し合いながら学習を進めた。そして、学級全体でまとめたことを共有した後、再び個人で政策の評価を行った。また、「政策カード」は毎時間クラウド上で提出してもらい、それを共有することで、友達の考えも見て参考にできるようにした。個人で考えをまとめることが苦手な児童は、友達のワークシートを見ながら自分の考えを形成していた。

図1

政策シート 参勤交代 名前

目的と内容 (何のために どうしたのか)	効果・影響 (誰にとって どうだったか)
・大名が(<u>領地</u> (藩))と(<u>江戸</u>)を	大名…妻と子どもの命がかか、てる
1年おきに(<u>行き来</u>)する制度	から、かんたんに反古しをおこせたり。
・(<u>妻</u>)や(<u>子ども</u>)は(<u>人質</u>)として	幕府…人質がいるから反古しおこし
江戸に住まわせる	にくくせられる。
・幕府と大名の(<u>主従</u>)関係の確認	大名の家来…大名(主)が111111あ111111
・江戸では(<u>幕府</u>)のために働く	向があったら、どうすれば111111分たなく、
3代将軍徳川家光が定めた	弱体化ね。宿場町、道路が発展し

政策の「○プラス面」「△マイナス面」「★評価」

【評価】 良い 5 — ④ — 3 — 2 — 1 悪い

○宿場町、道路が発展してお金が回る。金か回、て、商売は発展する?

△大名の金が増え、かつつになる。妻子にと、これは大め111111。

★幕府にと、これはめさる111111。幕府もまよまよ発展おけど、お金とせす

かちの大名にと、これは行き来いと妻に、関わるか、い111111か、い111111と111111い111111

自家たいらさ111111め111111。家来にと、主が不在の間には、お金の111111回さる111111大め111111

② 単元を貫く学習問題と「ベスト政策を選ぶ」統合的課題

第6時では、「政策カード」を根拠として活用しながら、各政策を比較し、最も有効だったと思う「ベスト政策」を選び、その理由を考えた。

第7時(本時)においては、児童は自分が選んだ「ベスト政策」の良さについて根拠を示しながら、理由を語っていた。多角的に政策を評価する視点(プラス面とマイナス面・異なる立場による視点)をもって話し合いに臨んでいる児童が多数見られた。これは、これまでの学習の中で、政策カードに多角的な視点で概要をまとめることができていたことが一つの要因であると考えられる。また、有効だった政策をランキング化させるという課題提示により、それぞれの政策を比較検討する必要性が生まれたことで、理由(根拠)を明確にして自分の意見を生き生きと話すことにつながったと考える。

第8時は、これまでの学習を振り返り、「有効だったと思う政策ベスト3」を選び、理由をワークシートに記入し、単元のまとめを行った。

(2) 展開の構想研究テーマに関わる評価

①児童アンケートから

表1は、6年生児童25人を対象とした社会科の授業についてのアンケート結果である。表1から、3つの項目について肯定的評価の数値が上昇していることが分かる。特に、「授業中、自分で考えたことを書いたり話したりしていますか」という項目において、肯定的評価の数値が20%上昇した。また、3つの項目全てにおいて、「そう思う」と回答した児童の割合が大きく上昇している。特に「歴史的な出来事や歴史的人物が行ったことについて、さまざまな面から見たり、異なる立場から見たりして、考えを深めていますか」という項目において、「そう思う」と回答した児童の割合が16%上昇した。

この結果から、児童は、主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現したり、友達と対話的に学んだりしながら、多角的な見方・考え方を働かせて考えを深めていると自覚していることがうかがえる。

表1 社会科の授業についてのアンケート

質問項目	回答	単元開始前	単元終了時	肯定的評価の変化
授業中、自分で考えたことを書いたり話したりしていますか。	そう思う	28%	40%	単元開始前 64% ↓ 単元終了時 84%
	少し思う	36%	44%	
	あまり思わない	36%	16%	
	そう思わない	0%	0%	
友達と話し合ったり、友達の考えを聞いたりすることで、自分の考えがより良いものになっていると思いますか。	そう思う	40%	56%	単元開始前 84% ↓ 単元終了時 88%
	少し思う	44%	32%	
	あまり思わない	16%	12%	
	そう思わない	0%	0%	
歴史的な出来事や歴史的人物が行ったことについて、さまざまな面から見たり、異なる立場から見たりして、考えを深めていますか。	そう思う	28%	44%	単元開始前 80% ↓ 単元終了時 84%
	少し思う	52%	40%	
	あまり思わない	20%	16%	
	そう思わない	0%	0%	

また、表2は、本単元の学習についてのアンケート結果である。2つの項目とも8割以上の児童が肯定的評価をしており、また、「そう思う」と回答した児童が約半数にのぼる結果となった。

この結果から、児童は、「政策カード」を有効に活用し、政策についての理解を深めたり、「ベスト政策」を選ぶ際の根拠として学習に取り組んだりしたことで、思考力や表現力の向上を感じ取っていることがうかがえる。

表2 本単元についてのアンケート

質問項目	回答	単元終了時	肯定的評価
政策カードを使って学習したことは、分かったことや考えたことを整理したり、ベスト政策を選んだ理由を考えたりするときに役立ちましたか。	そう思う	56%	84%
	少し思う	28%	
	あまり思わない	16%	
	そう思わない	0%	
「有効だった政策ベスト3を考えよう」という課題に取り組んだことで、考えたり、表現したりする力は伸びたと思いますか。	そう思う	48%	88%
	少し思う	40%	
	あまり思わない	12%	
	そう思わない	0%	

これらの結果から、本研究のテーマである「歴史的な事象について、多角的に捉え、自分の考えを表現する力の育成」のために行った①「政策カード」を活用した思考整理と意見交流、②単元を貫く学習問題と「ベスト政策を選ぶ」統合的課題の2つの手立ては、児童にとって有効だったと考えられる。

②ワークシートの記述から

児童は、第7時（本時）での交流活動をふまえて、第8時に改めて「有効だったと思う政策ベスト3」を選び、最終的な考えをワークシートに記入した。表3は、第8時におけるワークシートへの記述の評価基準とその結果である。A評価である「政策の内容を正確に捉え、事実や内容を根拠として、政策のプラス面とマイナス面、あるいは異なる立場から効果・影響について考え、政策を評価している」児童が20人であり、学級の80%を占めた。

表3 ワークシートの評価基準と評価の結果

評価	評価基準【思考・判断・表現】	人数
A	政策の内容を正確に捉え、事実や内容を根拠として、政策のプラス面とマイナス面、あるいは異なる立場から効果・影響について考え、政策を評価している。	20人
B	政策の内容をおおよそ捉えているが、根拠があいまいであったり、効果や影響について一方的な見方に偏ったりして、政策を評価している。	4人
C	Bに満たない。	1人

また、図2は、児童Aのワークシートの抜粋である。児童Aは、第6時（話し合いの前）においては、幕府からの視点にやや偏った記述であった。しかし、第7時（本時）の話し合いを経て、第8時においては、政策の内容を捉えながら、幕府と大名の複数の視点から政策の効果や影響についてまとめ、自分の考えを記述することができている。政策のプラス面とマイナス面について理解を深め、多角的に政策を評価する視点をもって自分の考えを形成することができたといえる。

図2 児童Aのワークシート（抜粋）

江戸幕府は「大名の配置」「武家諸法度」「参勤交代」「身分制度」「領国政策」などの政策を行いました。幕府のベスト政策は何だと思いますか？ 江戸幕府が長く支配をするために、効果的だったと思う政策とその理由を書こう！

話し合いに向けて

①事実・内容（どんな政策か）
②効果・影響（誰にとってどうだったか）
③評価（どう思うか）

ベスト政策 ①武家諸法度 ②大名の配置 ③参勤交代

1位の理由

幕府をおおそと団結することできないから
幕府がおおさる心配がない
1700人をあつめているから、強い戦力をもつ人が少なくていい

幕府の政策は、幕府が定めたきまりで、舟を造ることをしたり、幕府の許可なしに結婚してはならないなどのきまりを行った。
これによって、幕府は支配しやすかったが、武士や大名にとっては、幕府に不満がつのるという面もあった。
しかし、武士や大名たちが取りついでをおおそはむかひわなかつたということにつながったので有効だったと思う。

本学級の児童は、以前であれば、根拠があいまいであったり、一面的な視点にとどまったりすることが多かったが、本単元での学習活動を経験したことにより、多角的な視点から考える力が高まったと考える。このように、断片的な知識だけではなく、多角的に考え、表現する力が身に付いたのは、本研究の手立てである「政策カード」の活用と「ベスト政策を選ぶ」という課題が有効に働いたからであると考えられる。

(3) 今後の課題

本実践を通して、歴史的事象について、多角的に捉え、自分の考えを表現する力は、着実に身に付いてきたと考える。しかしながら、相手の考えを受け入れるという観点については、課題が残った。本実践の「ベスト政策を選ぶ」という課題は、良くも悪くも「自分の考えを伝えたい」という気持ちが大きくなりやすい。実際に、授業においては、相手の考えを聞き、受け入れるという姿勢になれない児童が複数名おり、自分の主張を伝えるために、必要以上に白熱する様子も見られた。「真の話合い」には、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の考えを受け止めながら聞くことが欠かせない。

本実践であれば、相手の考えを聞くための手立てとして、話合いの際に相手の考えをメモすることなども考えられる。また、本時の展開③の話合い活動（同じ政策をベストに選んだ人同士で、政策のプラス面とマイナス面についてまとめる活動）において、話合いのポイントを絞り、「一押しポイント」として簡潔にまとめる手立ても考えられた。

より一層充実した表現活動を行っていくために、話し合うことの良さを感じられる活動を取り入れていくことや話合いのポイントの焦点化が必要であると感じた。「真の話合い」によって深い学びが実現できるよう、伝えることだけでなく、聞くための手立てや工夫についても、今後考えていきたい。

7 参考文献等

- ・ 文部科学省, 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編, 2018
- ・ 教育出版, 小学社会6, 教育出版株式会社, 2024
- ・ 澤井陽介、中田正弘、加藤寿明、宗實直樹, これからの社会科教育はどうあるべきか, 東洋館出版社, 2023
- ・ 渡部竜也、井手口泰典, 社会科授業づくりの理論と方法 本質的な問いを生かした科学的探究学習, 明治図書出版, 2020